

神戸空港脱炭素化推進計画（概要）

1. 基本的な事項

○空港の特徴

- 2006年に神戸市及びその周辺の航空需要に対応する地方空港として開港。
- 神戸空港の国際化・機能強化に向けて整備を進めている。

○空港脱炭素化に向けた方針

- 空港関係者が一体となって脱炭素化に向けた取組を推進。
- 水素の利活用等の先進的な取組みにチャレンジし、更なる脱炭素化と競争力のある空港を目指す。

2. 温室効果ガスの排出量

区分	温室効果ガス排出量[t/年]	
	2013年	現状(2019年)
空港施設	3,580	2,120
空港車両	340	390
計	3,930	2,510

3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比 46.0%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

4. 主な取組

- 2030年度：空港施設の省エネルギー化、航空灯火のLED化、太陽光発電の導入等に取り組む。
- 2050年度：空港車両のEV・FCV化を推進するほか、水素等の新たな技術を活用した取組みの検討を進める。



※BEMS:ビルエネルギー管理システム

その他の取組

- 地域連携・レジリエンス：神戸港と連携したエネルギー実証等を検討
- 意識醸成・啓発活動等：空港関係者と連携した環境活動の継続・推進

